

四二
ますが、若し教育勅語に明かにお示しになつて居らんければ、軍人の勅諭なり、御製
なりに示されて居る通りに心得、宗教的氣分を捨てては人の誠心の開かれぬことを
知り、皇祖皇宗を奉ずるそこに宗教的の尊敬を失ふてはならぬと思ふ。明治神宮を造
營して明日（大正九年十一月一日）から先帝の英靈が鎮座なさるのも、これは宗教的
である。これを國民道德ぢやと言つて、今の教育者が言ふやうな、帽子を取つてこの
邊まで頭を下げるといふのでは、話が折合はぬぢやないか。さういふごま化しては何
時までも済むまい、懺悔には如何なる罪も滅すると佛教には説いてあるものでありま
す。

それ故に教育勅語には唯今申すやうな宇宙的道德、國家の天職理想が明かになり、
國民的道德、家庭的道德、社會的道德、人道的道德、人格的道德の全部に亘りて、明
かにお示しになつて居り「宏遠、深厚」といふ事を適當に發揮すれば、宇宙的道德
もこの中に存し「恭儉己れを持し」の意味若くはその他の御製、勅諭等に對照して考

へたとき、人格の基本も明かである。この宇宙的の道德と人格の基本たる道德とを明
かにすると、ひやみに宗教を嫌ふことは出来なくなるであらう。それで耶蘇教が妨碍
になるならば、耶蘇教は我が歴史的文化と融和せぬ點があるから、其點を能く注意
せよと、正直に教へたら宜からうと思ふ。宗教が必要だと云へば直ぐ耶蘇教が頭を擡
げると思ふのは、餘りに教育家が恐怖心に襲はれて居るので、我輩は今後我國に於て
耶蘇教が大いに勃興する事はなからうと考へる。一時は耶蘇教に心酔した人もあつた
らうが、それは西洋が文明國だと思ふことに依つて、耶蘇教を信じたのであらうが、
今日は西洋の文明も大體底を突いたのであるから、決して耶蘇教は左程に恐るべきも
のではない、今までは耶蘇教は相當な傳播力を有つて居つたらうけれども、今後の日
本に於ては決して恐るゝに足らぬと思ふ。若し教育の方面に於て宗教心を拒斥する態
度を改めなかつたならば、人心の墮落、思想の惡化といふ二つの爲に、耶蘇教が我が
國家を害するよりは、ヨリ多き弊害を生ずるに至るであらう。恰度猫に魚を食はれては、